

知事との県民対話集会（御代田町）概要

- ・開催日時 令和5年6月23日（金） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 御代田町役場 2階大会議室
- ・参加者 県民50名、小園御代田町長、阿部知事、原佐久地域振興局長
- ・テーマ 子育て支援～子育てしやすいまち～

・主な発言（要旨）

【参加者】

・現在、未満児研修会は大規模保育園も小規模保育園も一緒に参加できるようになっており、申込み開始とともに予約が埋まってしまいう状況。小規模保育園対象の研修会を開催することにより、研修参加機会を確保するとともに、他の小規模保育園との交流機会をつくっていただきたい。

【知事】

・研修ニーズがあるのに受講できないことは困ると思う。今まで認識していなかったことであるので、宿題として受け止めさせていただきたい。

【参加者】

・三つ子の父として、子どもの保育園児時代は第二子以降の保育料等の減免の恩恵を受けた。子どもが小学生になり、学用品の費用が同時にかかる。授業でしか使わないリコーダーなどについて支援があれば助かる。子育て支援政策は、保育園児ではこれ、小学校に上がればこれ、などと切れ目なく継続的にお願いしたい。

【知事】

・県立高校の学校徴収金については整理したが、それでも保護者からは徴収金が多いと言われる。学校徴収金は県予算の範囲外であるため、県議会での審議などの民主的なコントロールが効かない部分。教育を分権型にするという意味でも、教育や子育てのあり方については学校や保護者、地域の考えをストレートに反映できるような仕組みにしていくことが望ましいと思う。その一環として学校徴収金のあり方を改めて課題として考えていきたい。

・少子化対策と子育て支援は自治体にとって最重要課題であり、少子化対策として必要なことと子育て中の方のニーズの両面を考えて政策に取り組んでいきたい。

【参加者】

・長男出産後、体調の変化に悩んでいたが、自宅で町の助産師に相談することができ、悩みが解消され、子育てに前向きになれた。普通は病院でないと話ができない助産師が役場において気軽に相談できるのは心強いと感じた。

・次男出産後、家事、育児等により体に限界を感じていたが、カイロプラクティックにより骨盤のケアをしてもらったところ、不調がなくなった。子どもの検診などの機会でも、お母さん方に対し骨盤ケアの重要性について話をしてもらえればと思う。

【知事】

・産後ケアを含めて、今後も長野県を健康長寿県として充実、発展させていきたいと思う。健康づくりは一人一人の心がけの部分もあるので、ご協力をお願いしたい。

【参加者】

・小学生の娘が週4日児童館を利用している。工作など子どもが飽きずに楽しめるよう工夫してもらっており感謝。自由に児童館の中に入れるので、保護者が子どもたちの様子を見ることができ一方、防犯面で懸念がある。

【知事】

・県が条例を制定して管理するやり方も可能かもしれないが、管理型の社会になってしまうおそれがある。これは自治の分野の話であり、地域社会や組織で話し合い、どうやって子どもたちを守っていくかを考え、決めていく仕組みなどが必要であると思う。

・防犯面での懸念については、県としてどのような助言やサポートができるかという観点で考えたい。

【参加者】

・移住してきたこともあり、知り合いもおらず、特にコロナによって人との接触が制限された中で、子育てに対して孤独だったと感じる。
・仕事をするために子どもを保育園に預けようとしたが、空きがなく、すぐには入れず、夫が昼間に働き、夜間に私が働くという選択をした。特にこのような環境では、自身の病気のため子どもを病院に連れて行くこともハードルが高く、一時預かりや病児・病後児保育等を充実してもらいたいと感じる。

【知事】

・移住者が地域の中で孤立しないようサポートする体制を考える必要性を認識している。
・子育て支援政策の中で、性別に関わらず働きやすい環境づくりが重要だと考えている。経済界とも問題意識を共有し、女性が働きやすい環境をつくるために経営トップとのネットワークづくりをしたいと考えている。
・一時預かりや病児・病後児保育等については、働きやすい環境づくりや安心して子育てができるようにするためにも重要だと考えている。市町村の皆さんとよく相談したいと思う。

【参加者】

・学習指導要領による一律な教育により、先生も子どもも苦しんでいる。教育にも分権をとという知事の考え方に共感した。

【知事】

・学校に行かない子どもたちと話す中で、本質的な問題意識を持っている子どもも多いと思っている。各教科の必要性や給食の内容など、当たり前だという発想から入っている我々大人の方が、実は子どもたちに対してマイナスの影響を与えているかもしれないと感じる。その意味で、子どもたちの声も聞きながら、どういう授業をしようか、何を学んでいこうかと、学校単位で考えられるようにする必要があると思う。

【参加者】

・子育てについて、当事者による自助や行政による公助のみならず、地元住民による共助の力が重要だと考える。地元住民や教育・子育てに対していろいろなアイデアを持って活動している方が集まってくるような仕組みを整えてほしいと思う。

【知事】

・自助・共助・公助がしっかり噛み合っていないと、本当に安心できる社会にはならないと考えている。行政がお金を出すだけでなく、また、保護者のみが頑張るだけでなく、それぞれの「共」の部分、NPOや社会的な活動をしてる皆さんも含めて、みんなで連携して子育て世代を応援するという方向性をしっかり出していこうにしたい。

【参加者】

・御代田町には元気な高齢者が多くいるので、子育て世代に対するお手伝いができると思う。

【参加者】

・地域の元気な高齢者が子育て世代をサポートするための登録制度などの仕組みがあればよいと思う。また、児童館と高齢者施設を併設するなどし、子どもと高齢者が交流できるようにしたらどうか。

【知事】

・高齢者の皆さんが子育て世代を応援する、あるいは子育て世代を支えていける仕組みについては、コミュニティ単位、市町村単位でやらないとなかなか難しいところがあるので、市町村にも協力していただきながら考えるようにしていきたい。

【参加者】

・県内に小児科・周産期医療を持った総合病院は11か所あるが、小児用ICUの数や中長期的な通院に関して問題があると感じる。移住を促進するのは教育と医療だと考えており、妊娠から継続的にサポートできる仕組みができれば、さらに多くの若い世代の方が御代田に集まってくるのではないかと。

【知事】

・特に出産に関しては、しっかりした対応ができる体制をつくらないと安心して出産できる環境にはならない。地域においてどこで出産できるようにするかということ、どこに医師を集中的に配置するかということなどを考えないと、全体として医療の安心感が確保できないということにもなりかねないと思う。
・限られた医療資源をどのように最適化するかということを考えていかなければならない。子育てしやすい環境をつくる上で医療が重要だというご意見はそのとおりであり、その点も含めてしっかり考えていきたい。